獨吟百首

へ13
2950

△山樓

手段逼物娼妓絹篇歴白序
煙花と將棋の局面を設娼
妓乃狗下踏の情景を觀る。
茶店ゟ賞玩棋子あり。雛て
私夫ゟ間象子あり。大通直て
乗車先乃ゟく素痴曲ゟ申

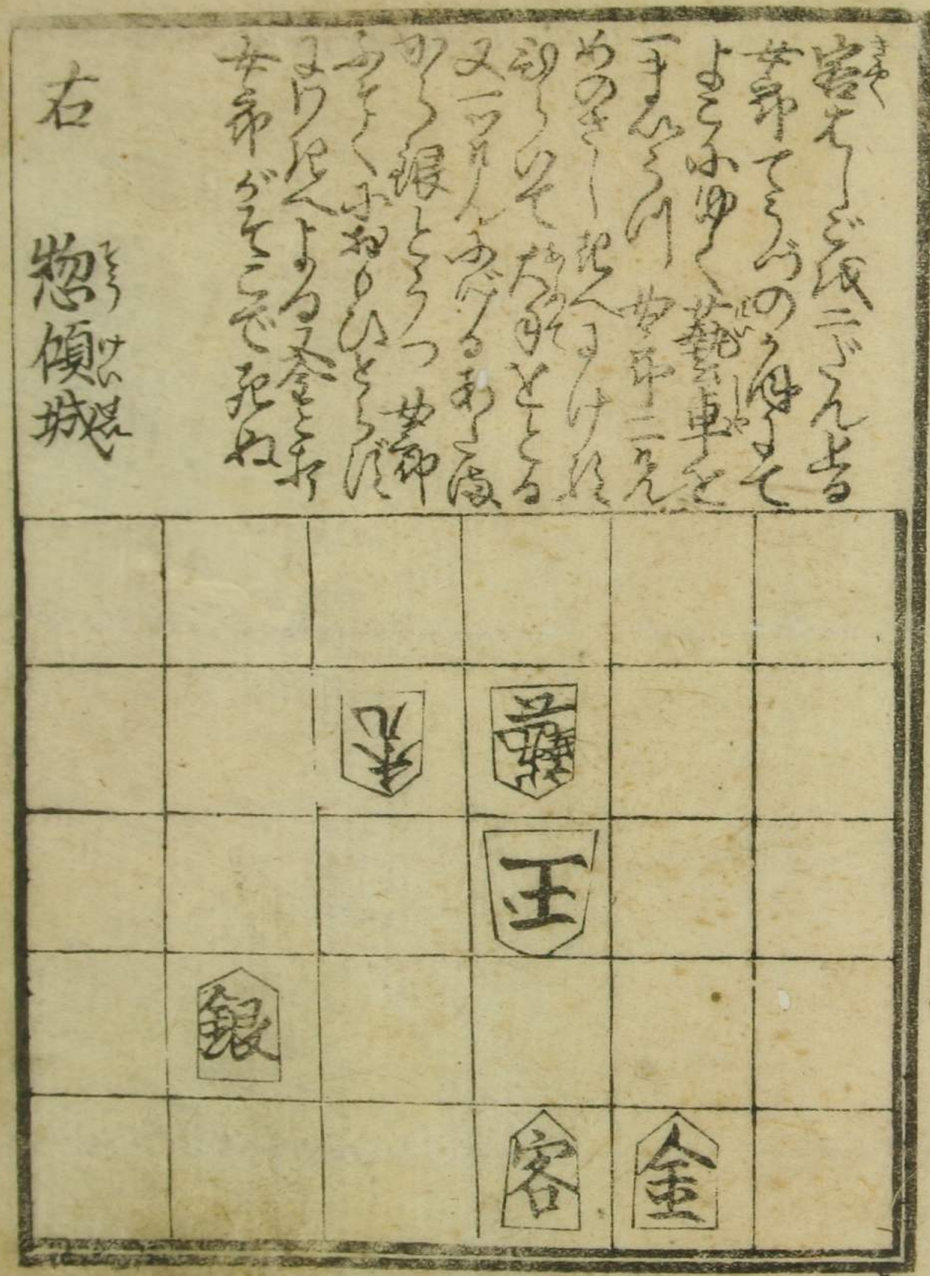
へ13
2950
昭和十二年二月二十三日

角芝居場。初舞の席上毋
勅王子あり。別座の間中可
入王たり。色々金銀よ着く
思ふ茶ゐ形し。堅心乃石田
を崩れ擔ふ園とも忽破る
の恐所計のあり都遍と

あるんエを梓場へ持て歩く
の餌とあり香車は慮なきハ
謂角或ハ飛車の
現ふ縛られ式吉後王子の備
急コ昔見れ方ゑ時へ場の歩
を法りく昔する器倉は備

臨期で二歩のとつも留手成
つゝとゆくゝ毎借金先の為ゆ
逃乃を失ひ遂に雪隠逼と
なる其あり嫖客と將棋圍ハ一手先
ちゝくゝ成るし多娼妓猶
寵を仮るゆゑ不象戯乃

乃ぶる所ゝ段將棋の助ゝ
とゝ而已。
于時寛政三年辛亥解凍日
題於菊茂亭
山東京傳


右
惣傾城
王
銀
客
金

目錄

第一回
義理と情の二タ乃小間基子もかなしき梅川が
抱車を玉ゑ

第二回
はらひたまくしくに二歩殘る金屋九三郎い歩三
びゆうてもつまぬ鼠の上

第三回
金銀坂つり富ふもかまいぶで横ふゆくい女帝
の實と卯の角乃

手段詰物娼妓絹籬

山東京傳著

○第一回

義理と情の二タ乃小間基子もかなしき
梅川が飛車を玉ゑ
□沙糖屋の丁兒甘紀をきくゝ鰻屋
の猫兒茲をこの海を李白一斗詩百篇
こいつ拔ゝ一度ぬるも釵羨ぐ居風呂を

そして三日だけを入れてあるゆつくり湯つかり
ぬかるといふ事を幸ひの乃ちそれ
たゝへといふ事を西行も飛鳥山に居つゞけ
とき〻ゆつくりとつかるべし欠伸をもらるる
べしされば久米仙人も女湯の畫人を
ゆるし素戔嗚尊は通天橋をもゆるし
弓削の道鏡とても女護島へゆるし
たゞ世ちあいとまゆべしどれうどゝ美

藤てゝも胡麻の眼前母姫〻使つく居て
ハとの内〻かゝれば女郎買も命ゝ二番
同じく大切れ金沢湯屋山
ところ浅草金龍山
昔屋とりてゝ紀の四つ乃郎兵衛
あとして人間現しのぶく色〻ことそ
おりゝく出あつゝの一年買の男
をゝぶ乃ま湯揚酒屋九の

せんと女帝の勝ぐれ給ふ為どうち
てんぢの賤身と渾家ふうこころろ
がこ目もあらぐど鼻ふつくい世間ふいくら
もあるうこちり襲ら昌乃ーきてめが為
ハけうまふ月とくまれ奇とのこ乃るこもの
くりとしひーもまことふ如生ふ紀法師く
てこ成りつく猩ハ女色の選ひもたれ如
べー嗚呼さうじやとゆうり悟新選に

二

初うきこんひてめく捨ぐこれいとうく冊
頂うひ乃一ッ目ふ上ハ一人よりそ下も
ハ第人講の像限免免毛のポットセの
髪ふ天色ぐぐ初ふうしつの者夫さも
むーはりんぐ伝田の表ゆんうこ吐乃象
ぐちーこまうこ法ぐ徒ふくかの川柳が
選ふ母の名て親父の腕うーこび
て乗ハ頭穿ひうこちやこうね

知らいつくがあるべき酸鼻酒呑童
子く脱とくもちろんまぐ夫きん
涅槃像の二をくれやうふ已に仏あ
ちこどくちーりの往事ものふ渡とこぐ
ちこ公ゑれで実ふ女色ハ鮮骨乃斧
遂仙ちん毒ふちこまりこと佛祖之種
ふ陸屠子の日愛欲い色くうゑれぐ
ーきこハちのーく宋の景之元ぐ夢色

のくちふ金公俊りんくうゑれば
たふ死くく甚ーくくく

ゆどんのうらべうら淋そうそうくうくうくう川
上ばくづのもとべ僧方すかううづれ
弟子うもとどもう山穴人園と踏
塚成とうう家成却ようう身をおく舎え
僧僧ふうぞくつくう周室と流
され寝城が霧も波撥一切人おうう
鳥蛾川霧乃霧をつるふ壊さうう成
きうど清の要翁が聚海の迷清どや

ひう風池
赤分乃うれ耳ゥ鼻ううゥ子成うま
日社禊宗廟をは侍ゥ紫こうんな節
穴とどわりの相伝ふきうううこうの
川へ惑ひもあるまうう何丑ゥりゥ
邪魔ゥ庭ロ姉ゥ風ゥ穴完ゥ年
もどくおううどうきんゥ妖洞ゥう
○宴ゥもう大坂新町乃郭ゥう

まつて同じ所の[illegible]世話拾人のく
[illegible]堂坂[illegible]氏[illegible]梅[illegible]びて[illegible]
[illegible]とまえの通ぶれへぬきのられた
よの[illegible]ん[illegible]梅乃[illegible]て人も
[illegible]つ[illegible]ー[illegible]屋新町の
女郎屋[illegible]屋治[illegible]ん[illegible]前[illegible]抱
の女郎梅[illegible]ん[illegible]ぶ[illegible]ぐし
頃[illegible]ば保[illegible]

世別荘がもつとくしと尚[illegible]遊
梅[illegible]看病のもつとも[illegible]く
[illegible]小遷居[illegible]秋乃[illegible]
菊[illegible]花の[illegible]の俤
[illegible]屋[illegible]
[illegible]帰[illegible]出の[illegible]
の[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]の素燭ごろもあり門口部の稲荷ぎつね
ふひとりく幽霊ハ濡ぐるぶあるくるもう
にあるくるく野良ふそくもとりく祝
めるそべえ新ごろもあるぎ氣代ぐく
さめさんだいこさしもこ　たのうんのうえ
ゆりうへどうぐおぎんさん。アイタクロいろ
そうろうおぎんさ　うそりでんもうどん

くくくくおるんくさぐおりへ
ぎう風さんわくくねやうふりさうん
ドレ某波わさうくくんアニさうこ尾
鮮ふうもうもこ嬢くくぐおりんん
大ドの名狐ハ姉ふのかぐれり稼
ハハ洞ぐくしホンニ何まで色ぐ多
ちんくもとうる女ぬりの女絶知ぐも
ちと行いくくんせんさ。りんのうぐ

らーのおざうさんと交さとんの又旬さん
こなり世話ふうのあとあ称この憂
とうとうと嘆くあとしかとしたおざ
きれ月八世八ようなりかりみちりな
のこうでおざうさんとものそんはこれ
ムづムとうとうりんさんれサアムとうりはお
あんりんーーとこ赤ぢやさんとさー岩
ひりりいうさうりのく。こそ紙おつけてる。

七

芸者ようあるおこそ話さんの乃至で
おざんと。こそ紙もこうはるこうりのと
なおうさんの病名はうとうとうとうとび見
ちぢみこそ紙合してうあとさ間て
上下内沈のうまうつこうひ二階て
乃あくやうゆくとうヤンを縁とんよ
めんあらるものたこそ赤さんの和ふまる
んーーさんこそ年はこ月ひくこの物見で

おぢんーさん。アイわすれてゆくて出で
うんとアイサワりさんこの時のしさまれい
りさーんぢんさんと其晩出て居さんの取
い羽織も小袖も正八ま。それくて
とそこへ財布の清蔵行つのちとの仕合
もいつて寒気ぢおぢんーさ。さーもも
吹出ぢんぢーでるるこ面ひ。ちさら家へ
もくゆくゆんぢんでいひんとおりて

もきこへ今まで男みやきあいひみくぢりよ
ておさんとりく。そ後ぢんーもさで
おぢんにきに秋いまりを口さーが涙乃目
よ痛そんーてもくゆんーさ
ち清さんのいひうんと三八様さん神さ世
やれーさてもりくが仏乃中さおい
と仕廻ふよこてもり出金ぢーいりの
でたりふよいぢんぢるく初名代て来ら

も何うぞ迎ひをらしゆうございまうてくだされ
てのやうに今夜うしてお同よりれ
とゆうこうちやうあるひやすまづ
とんとんと出ていんしさぼんにたくさん
の癖がいろそれーーは上るどよそれ
わーーーがかうひてーさるーさらが
やうおたちるを女郎でも座もそん
ぶそおくんなんとんとてふあるんすさ

たくいつものぐおざりなもがつてやう
う神しくおざんせんゆんざるでるく
ちつちつ知らしさうおろ世とを
うんめるあとやうおりひーてもそれ
ぎりく出らるんせんんんんんんん
どやおさんせんを人そをとりんかんぢり
西西それにわるふ別陽のあるが今夜
いどそそがわるゆ人をるうーーれく行成

あるときまでかまくらのうらびとの
うりかてもまだやはりかたひとれと
いろいろおうんをつかさくらかりか
おさんをとりてしがやーさいさそれから
みたりをかさんがいひるんをあへうかうさを
むごひしかいてのさはごろうら茶屋
うをかくゆこうきをてん
ぐをうそもうでにそれをうく

十

てうしてをんなをとりかいつのらうきさと
四ひさはといひなどをうこうぐし孔
をとれ向てもさうしてを星(せい)ぶ
逆とつをのうえーさ。ホンニさうでお
ざんしさそしてうりつも面白(おかしく)ろう
くまそヲヤどうしてくとをうをのう
さうちひんをとてうのれうえうを絵(き)
いりうんぶんの所なりのも。フウ 物金

ぞ[illegible]のうちに人しく[illegible]と
おりつく[illegible]さんの[illegible]の裏のと
ちひろ一れく[illegible]ぐ[illegible]ちぐりうさう
思つてて[illegible]ひ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]何も
いひやとあ。トあ[illegible]
[illegible]
モシヤア[illegible]

[illegible]さお方なるほど今まくおもを有
てこそ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

てんかうくしゐ[illegible]のおぢと
[illegible]ふてんかのふとときを迷ひ[illegible]
煙管でさくはんしさぐし
いが、そとたへ真ふう祝しくおりしんしく
そもでかつそり悪縁くおざんしそれ
男はゆるふしてもゆさぐが女郎のかの
して梅川は孫吉と少の金をかくしほ
のりがまくまぐるしかるに出し秋

身ふかれ秋はぎ具合出もとぐ梅吉をそば
うくまぐ出ほ面引ふるりどうくはつ
鐘ふもで氣くさもとても梅川をを海
そくふのすやくくと度いつけべひろふ
ぎ物ふかつくふ屏風ぶとかけ
てときし陽炎瑞雲一枚あくれで物の
幾分清まのひまとう方燈のをおかと
ぬけとわくう封墨ハあくうくとれて

迷ふのく　ちんぷ　ちゃいとゝゝ　ちゃんく
座へそろ〳〵　夜の長サうく〳〵〳〵

第二回

ぢうひとりて二歩のうる亀屋太郎
歩こと　無ぐもつまぬ身の上
□朔老也　浪速の亀せきとめて英金
でかけ　土産いろ〳〵の買ものあり
贖ひ　わとび　流行　日々　明　日

ふあ〳〵　るれ町の夜　ちゃんぷ　ひとり
夜ろそひろ　ちゃのろぐき　チャンラ　ごしく〳〵
ちゃんいぐ　「いろ〳〵やてそ　ちまり
清あのうん　姉とある
立ろて　只　説　ぐ　ある　独り　ぶれン
○いろ　庫　ぐ　帽のそ　ぐ　ふんぎろ　コレ
鉄やこれ　西川　屋　成　そろ　ぐ　えきとは
ろまぐろ　ふ　ぐ　ろ　ぐ　ろ　ぐ　ある　ぐ　ぐ
ろきや　ア　ろ　人　内ぐろ　ぐ　ぐ　ぐ　山　屋　エイ　人ウ

てうふい
すけんの後
里町のぞえ見せうせんア
ゆいうん久のん
如意輪観音ぶ
いつ月でかぐをして
変うて探れさ女ぐ
知ってんらん女ぐ
つけしいのうもひ柳
多の
年をさしてかるぜ
びのくりぎーも一

花曉フウあんさる
ぐのう茶のの店のう
ふ腰ふ腰ふうあ
人物あれあまぐっうあの
ーーにあげてくりやよ

十四

えうさのうのうう珠人ちやまふるるくゆしのの下ふれてあさ
お尾ふまれてきあく
花ぬきやァぶとんぐ氣
のきれくださ里女ふんぐを今ふふや
アれくう花うう山く里ろちちぬ初ぐ市
のさひとのうちんまりのふきてのうき
いぐ花れ女ういあげをくうろて判人のお
へさぐうくいのぬく花うさァれくアレあく
びふすァ大きみのぐぜ里やけ硯ふれ

かつくわる女郎は手ぬぐい絵乃涙むしり屋
ぞ〻花暁はやうるりけ〻しとのぞいてみるこゝもそこもぞ
あり〻くるそ門ふいつ〻おのりひむしゆ〻これをまもる
こゝちゝ乃系無ゆ人の二重ゑ暁といふこの
ゑりの氏きそのれもんい茄子のつ〻をこ
せるこゝ〻〻濃ん子ぞおろべ〻こゝこゝつと
の〻といへどもあひこゝるゑ無あーこゝこゝア大ゑひさ
あれもそこれこゝれ人トゆれもこゝる□自註三日山里丁花暁にこゝれも助ゝ
音ゆて間走とゆ長崎丸山こゝそしなゆこゝこゝれを唐
ゑゆ〻〻のこゝれゆ人素ゑ振とゆあゑまゝるゑ世往古

吉ゑこゝそいこゝ〻ゑこゝこゝこゝこゝこゝこゝ見こゝこゝこゝ
ゆこゝゆこゝ○根ゑもゝゆこゝ三人の客ゑゆこゝゆこゝ

侍客 見こゝ人どれもこゝ〻〻〻〻〻りのでゑるの

今人 こゝゆこゝきれ〻〻〻のゆこゝゆこゝ人こゝ

い御年始ゆ奥人出こゝゆこゝでゑる 客 い

こゝ人ア人中ゆ柏乃宝紋付〻〻こゝ

女郎いよゑ宝こゝでゑ〻〻〻ゑ今田氏の

内宝ゆゆーゆこゝる 客 こゝるほどイやこゝ

らのこゝゑ衣こゝもよく〻〻〻〻〻れ 客 モノ見い

何屋といのどや 茶屋男 てんてんのうちちかん
あるの方ハイてれいふ 彩町で二ふあるそよ
てんてんちんをさりて
樋屋ちのぞてさり海をなんすてよ
おさるあなされませさうこうさとうち
そろくよんあるはあり海と 客 イヤ
のちくに他ふ見ていさとうさ
らぐきのちく チャンラくく
ゆられすこの樋屋ちに表のくちやけ
ふけんちふ成ちけられるちり 右ちに
人くやア様ちう定 へちふ蓋箱ふるりや

りやとふちるのちとりさと きちふ宝 あんまりう
ねちにちうちあきくやりうちあ世宝さるぐしりあり
てくくれくり 同決 うねぐやりふ舟弁が山
ち地くに屋ちてまりうれりうぐ橋ち立
てちちのちんあやくのちやりふ山崎備
見ちり 奥点ふちれやりふ白イつふちり
まぐやてやりに屋くひれちそれりちん橋唐
人くやア様ちう定 へちふ蓋箱ふるりや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゃくちゃくとあつまっておつさよきやくしんちゃくしんしゃく

[原] あのかやうなてあらんなんぐ

ゑんりょせんたうとてくりくりくり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そうしく命ぜらるるおんぬるんぢ
そろーー業神ろうろうそゆさこれをる
づゆく就くしんぢ仕事出ーーるるろ
とろの沢山やァ繁産のろう氣ろ業の
ぐとろろろうづるる松ぐことちろこ月
ぬよまるるおせん 称 ぬーーも女房流ろ
ほまてれるるんとろ ーを出乃郎ぐれ
称 おきやァぐれ こるる ヲホくくくくとろ

称 えんとおーーやづんるんーート仕くて 称 ぬる
やァうるるるそれるんるる廊下ぐるるちるん
すんをぐもでれるんーーるんるるる今ぬるるる
ーーと出ふでりるきるん 称 変のこ浪び
ろーーるるで 称 れーーちまれるまるる
やりれるものるる女房流ぬ様とひびりん
ちるるん 称 るるるんるるるーーるるるる業ァ一つるん
れるん 称 れるやァ口果報ぐるんるんまるる

今下ど茶紙入ヒしこ 柳 くすりのうちに
がうぐぐうぐぐうぐぐア 茶のぐぐ 図 うう
ど 柳 うりはうはうはう

二つハうんとこさせんとこ山ぢやのぢ 柳
ちゃ舞ゝしまあぐりふとられおぶちゃれうん
すれまさくらァそんなげむ山ちの楽ん 柳
そ神でもいろ男の面まうまいものむしんを
いろくやちきゝご 柳 うそうあつたらん ぶぐ
さうきちしいーさトいつきるのやりちゃを
うとうみ成のらそて侍まんとるのつぐわの
むくにそちやちりめんめそぶたべちゃァ物ぶ
きのにきをとりおしやちぐ
かとあり成一つぬるをせれ 柳 ちぐ 柳 けめてく

ヨヤ 柳 柳さんでんぶ降ておぶんをれだ談
のそりてかやきゝのこりふを秋ぢすりく
ありイーこえ 柳 たぢぜく 書 いろそたりこが
あつこりと トそこ三つ こだ沢すりる 柳 ちぐたさん
こりいろちゃァそれ沢ゝしへぐぐ せこ
きれめぐせそ てあけうがてりれた
ちぐかりる成そこ こぐ こくるん
さんのゆちくふ ふんづけたと気ぐりち

ア　おめんの紋いれんこのめんごの紋口きりん
のの紋名ごつけふ　しんこん雷の絵ばや
アあるへし　ちごがーしゃ　あやまりて　所　むくのさるへも
こうこうさきりこうこく紙紙ぶ　こうりこうこう久里の絵ばこ
やーもこんこん　ア　あんしーこあさきれ　二枚葉
うぐいすやア　竹へ芝居の木戸ゲ　蓮池一対
とうげーこうこうこう

ひろしくたくさんぜ暇見ぐるの嵐つぞ
ぢゃアのうあ一ユウトのもろくさんそろ
くひてんのんさトそそそ後ぶ
の虎へ無有の尾しれ見ッ見ッく
れんぜ極なぜんそ後ぢそそんふ里さん
ちろものうちふあるくしそそ侍人ぐ
そそうあくまるくうあれぐんを極それを
ちそぐみ千里のぐれそそうろん極

あんぢりかくれくしら氏ちくぎろん
ちん物なるこうぐこんろァさそぶのちさ
ぐ世虎のつぐぐつそ氏ふ一くく
居ろ和ふるんのるんれ一そぐやの賛
子彩切しふ対さ袋ぶんふるんる梅さん
第氏ちろくしる満ねそ極おくくも
ふ年とそ酒中ふ氏かくつけそ
とくそそもれおとの極

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初 ちゃ　あのくいかいもうえ　ーそそぬ百代
さんがれ　ゆ　あ　こ　ら　ら　ー　じ　ん　ま　ー　サ　ト　ち　ん　ぎ　ー
ん　ん　ら　ら　ら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おぎりとーもうモレ為ハ
きのふとどいくくくーくくく

ゆけばねしやうぶあるの彼岸ばかりたよりきん
ちゆうこうあるりんとそふ海ぞきくさん帰
いろいろごとりしゆう紀ようし飛ばるん
りやうぞもあぞん常人よりや分みけがとうく
きるきん
出勤をしてくるぐ侍宰府ふ紙こうも
そぐしふあぐんとそれよきろてあるぞ
うんとうとりおまつ成せくきやくれも
きれあぐぐつと新深もうくあの八ちろ

ぐうんかいはうのきやくしいこれ袖ぐうう
そ使ふつけていたんぐこるぐ海くなの
ゆく和くのうきやくそれ作ゆ分けけ
なんぐ太そんうし迎うあうんう梅川
ゆりのきん太そのアやうんうりやしやうぐ
つけうぐく
わんん実ハひゆきぐ岬都成ればくれと
ゆんぐあしとアノ八ちろ成ちめぐきろてかや
飯ぐきろ成れてくさうぐわれとと

てをんなきんのまつ
みのりやうのみつけもの
よいたはらとりうげ
さぐあとも八ちろあげたのんざふ遠にれん
傾ふつけ〳〵ゆくもむゆめ
宵闇うまどたんだ〳〵出る屋のうら口あと
八さんはうくゆ
うちのものざ

もせねばそこらへ四畳半ワルヒロ円食ニ
のひ村くてまゐ
まつものどいあがあるあ
梅川そんぶ〳〵ア〳〵梅
忠あがしてくまたぶ
あさあてゆこあもの
きつね梅川ホレニ梅
人をよ法花出

くんろんしてかへりてご若旁とそなうう
うあるあるべしとかぶかぶかぶかぶ
ぶかぶかぶかぶかぶかぶかぶかぶ
ぶかぶかぶかぶかぶかぶかぶかぶ
ぶかぶかぶかぶ

立のゝく月二ツふなんてゝゝ丸玄清さん
も動面のおゝぐ紙高ゝてゝおりて向
ゝゝおいゝんを月うゝ紙し月ゝげのお
月みるゝゝぬ雲う月出ゝく女まふおゝん
なんこゝゝもゝげゝくいのゝておゝんをふゝ
トいふゝゝ移ゝのゝん八ツのゝゝゝ紙ゝゝゝ玄
はゝゝゝちんかゝゝふ茶屋のおゝゝゝゝく玄
ちやゝゝりのきゝくゝゝゝ紙おゝゝゝ。けきゝくゝゝ
風流の人ゝゝゝをゝゝゝ即興をに
をさむ

雞鳴曲（ケイメイノキヨク）

セイロウ、ウツテタクヌストナスケイメイヌ、ムリヤウタイウンウキヨシ

青樓擊析唱雞鳴（名ハ本とうつて八ハ付ことゝゝる）夢裡陽臺雲雨清（ひやうぶのうちんぐりのゝんちゝ）

タウトラトヒヤカヒンハヂイテ、ヌヌヌタヌ、ムジヤウマタマタ、コレタ、ジヤウ

唐突佳人彈枕起（びゝゝゝまゝゝをゆまゝてレおゝゝ）無情亦復是多情（うちのもゝびをあんどゝゝゝゝ）

客 かるいたゝゝてゝゝるゝ 茶屋男 とゝうふたゝゝて

とう庵ゝて

○第三回

年紀成法寺宮ゆもかまくらで挟まれ
い女郎は真〻く卵の角及
□世の中へ乃〻〻なり独り山入る山の奥
ゆも麻で時なれ〻〻と昔淺草ゆ
麻茶屋の乃〻時代寿なるとなり今型
花乃〻〻なるとび鶏鶏もさ〻〻〻〻〻
ちゝで然谷ゆ堤で小判とで〻て〻も氣
つゝひ〻〻ゆ拵で人の〻も打のづ〻〻鶏

達て郷花乃〻〻なるとゆ
うりやぼゆ山あ〻〻ぬ〻〻
飯の〻〻あ花屋乃〻〻の
〻〻〻〻〻〻〻〻川〻〻〻〻〻
中の酒乃〻〻〻〻〻〻〻乃
金銭〻〻〻〻女郎の〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

やうでぐりぬきと 茶屋 てんにんの眺めとも
ぬさ 手紙 ぬぎ モシ おいらんのこゝへおいでなさ
さんばこうんもとへ 仲門 ほんのウトウトとねるまでは 里吉
観音さんの塔もこゝへまいれ 八 なんぢおりしろ
くわへぬぎ 園 かぶりぬぎでやこゝまでとゆかぬこと
まことめへ ちゃうれでまーやう 八 いんや 縄
ぐぐが出番みてやァ あゝさのちろうとも
ちぢ 面 らわへ 茶屋 ぢ おいらんぢうれへて

とうにさうじゃァ 桜門 ちろとこゝろ
もちぢつぶおさうふとも ちぢう 桜門 モシ おいらん
へちろとうぬくもうへ ぐるこゝけんとうゆ
トぬりけ ちろうくれるうく 園 モシ ぬしぐれしがで
ちぢぬぬまる。たちのもち
ぢうまへ トあのんをちろふとつを 神風ひぢのうつの 花櫃 柘榴 紫檀 袴
のこ 縞ぢ 金 不の 棚 よみて 朋友の 象牙 ん
撥 ぬ ぬ ァ 笑べこ 河 鳴ぬ 湯 治ぢ でぬ こ
さうぢ 芸 居 の こ ん ん ァ 太 刀 体 の 門

いろとりどりとかたまりあつまりて
梅のいく枝とそらに合器の樫樽大はた
人世ぎんせんに関てあるくモミ湯治場
かりつるもお供とうつくしきござり屋
こつ屋乃青菜でもたくさんまいせんと
ツーツ四人檀那がござーさきぬても出
来ることでこざいまさんがいちとのさわ
痛み所ござりまつアござります

茶屋

おきアがり

梅三

ござりしつわく

三ふくこしこし

よわどるく四とこれ燭台るるくハこちらきび
んとなりとさんとしこそさこと上ごがろうあ中こよがろうー
ものあるこうなど
あつてや時ろる○うそむ門ハ寒ごさぞ汚
とるるんしこ世ござ
てごづして出ろ屋の面さへ石周ろうと
んらさこ花石ごこひまあ梅三ろ秀
まよん葉山乃ろうつよちごー立とろう

梅三

ゆごえんモミ
おんんそのうちろ人間ごろ門ごが

下ぎのひ小袖(てうだい)とくきてはいらん 梅川 ホンニ
あげる今にうえてまいりでひおせらんでもつすれい
いくらいせん 梅ち ナニ(何)おもひよとよびんーやう二の
ち村(おちつく)落付くこゝまきはしくく 梅川 母の仮ぐ
梅ち かれーびんそあるひとふくあまもくあまえ
さんとよぶのいたりの八ちえづらえでおざんす
こうけらはそハ大くすと梅川がよ紙をつて受
ぐやふくーあゆれ乃ちとりをとひき

いさこのよつて 梅ち 梅川 おこ清さんか
むこ川がおちどゝ舟ばそちをれとそばかゆ紙後
居これ梅ちえ(モシ)おりんん何紙をとりこと
初ちをとと乳紙つけをくきのつくハ義母
乃森のゆめまくでやり雲龍の別註り
庵をひきーまく梅川がもつをれ物を南
初りひかゆる此時節ちこふーてゆげくを
いくでめんとゝのうちをひーハちをくも

あづしとすんなりまるきまるき婚姻筆まいゆく
ほくほくつぐり魚腸の雑説とのぐ〳〵の
きさこ〳〵成とこそ〳〵んと世の衰ぬがのと
あふ中の巻紙くぐどかどこよ重ねるへ物とこそ
こそら紙ぬぐまあり巻てつゆ中冊と

婚姻絡蘇絶

イ〇
五〇
七